

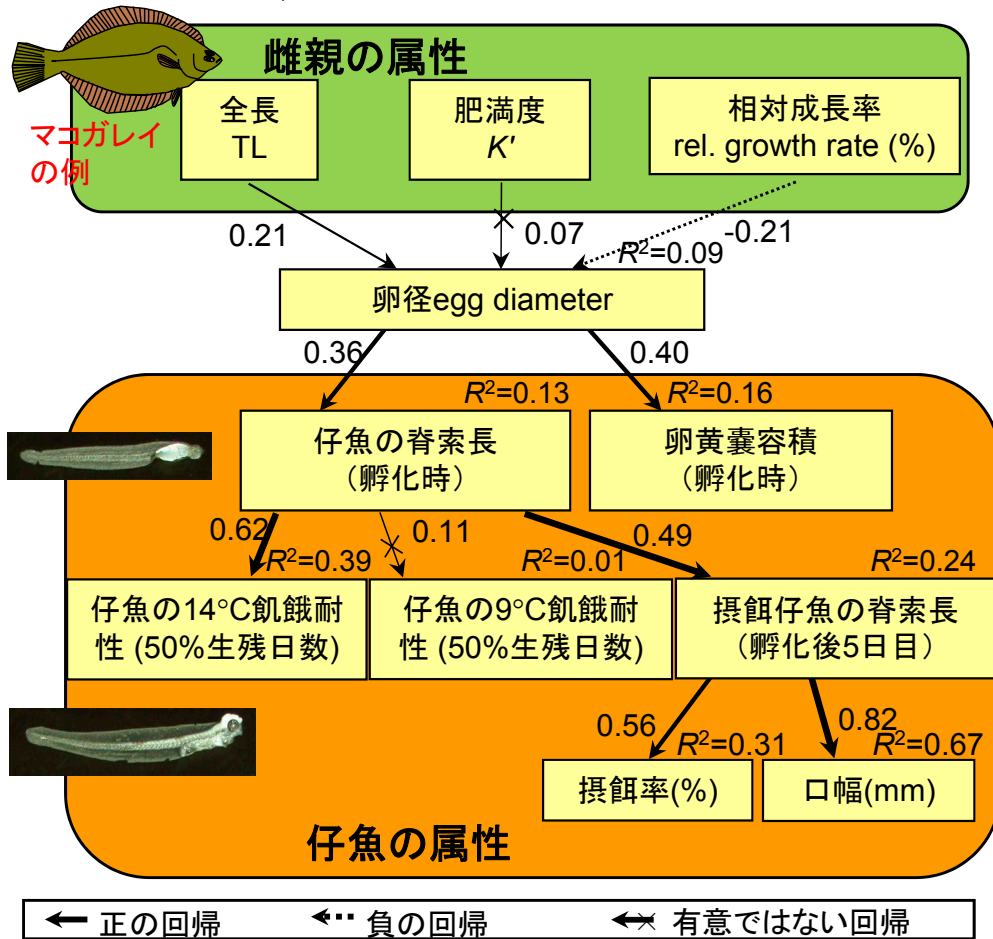


高津 哲也 「種苗生産に頼らない漁業資源の回復手法の開発」

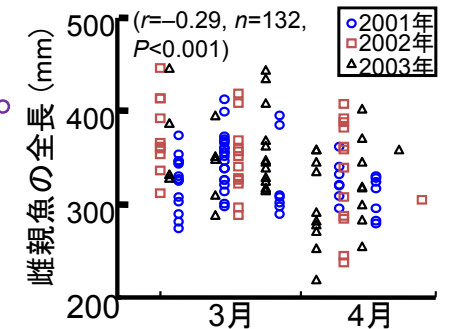
水産科学研究院海洋生物資源科学部門・資源生産学研究室

email: takatsu@fish.hokudai.ac.jp 内線 14-8822

↓Path解析＝多重共線性を回避した重回帰分析。数字はβ(標準偏回帰係数;標準化後の係数)。



- 種苗生産に頼らない漁業資源の回復手法を提供し、魚価を高める
 - ❑ 例えば、魚類の卵径は主に「表現型可塑性＝環境の影響を受け、形態が変化すること」に依存し、遺伝の影響は大きくない。
 - ❑ 大型卵は大型(高齢)雌親や、ゆっくり成長してきた雌親に由来し、孵化後の仔魚の生残率が高い
- このような「母親効果」を利用して、魚類資源の自然回復計画を策定する
- 産卵場に来遊する雌成魚は、産卵期が進むにつれて小型化⇒禁漁期を3月から4月に変更するだけで、自然に資源が安定・向上する。つまり魚獲時期を変更するだけで、自然増加が期待できる



<社会実装への可能性> (3点以内)

お金をかけずに、魚類資源を増やす方法を調べる。

実効性のある資源管理方策を実施することで、前浜資源の高付加価値化を高める方法を提供する。

MEL(水産エコラベル)等を取得するために必要な、基礎的な生物学的情報を取得し、資源管理方策を提案する。